

白老にバイオ燃料工場

函館の産廃業者 12月にも稼働

【白老】産業廃棄物取（石崎正敏社長）は二十四を製造する工場を胆振管
集運搬業などを営むエポ 日、廃食用油からバイオ 内白老町に建設すること
ック・サービス（函館、）ディーゼル燃料（BDF）を明らかにした。十二月

にも操業を開始する。
同社は九月に同町石山
の町有地四千平方メートルを購
入し工場を建設。一日当
たり三千六百リットルのBDF
を製造する。
全体計画では、二〇〇
八年に町有地を買い増し

し、取得用地を約八千二
百平方メートルに広げ、〇九年
をめどに同七千二百リットルに
生産を拡大。製造したB
DFは運送業者などに販
売する。

原料はスーパーの総菜
部門などから回収した廃
食用油で、メタノールを
加えるなどして燃料化す
る。製造工程で廃液やば
い煙は排出しないとい
う。製造スタッフ六人は

地元採用する見通し。
白老町が「バイオマス
タウン構想」を掲げ、可
燃ごみの固形燃料化など
を進めていることを背景
に進出が決まった。同社
の従業員数は七十三人
で、札幌に統括本部、東
京など六カ所に支店を置
いている。